

テーマ		
開催地	東京 日本科学未来館	
開催日	2004/5/29～5/30	
実行委員長		
参加枠		
参加費		
5月29日		
12:00～13:00	受付	
13:00～13:10	開会挨拶	
13:10～13:40	CCD測光－最近の話題を中心に	清田誠一郎
13:40～14:10	CCD最新事情	笠原誠
14:10～14:40	一眼レフデジタルカメラ部の改造とその比較結果: 光学ローパスフィルター／赤外カットフィルターの取り外しと交換	富田五郎
14:40～15:10	休息と記念写真撮影	
15:10～16:10	特別講演「SBIG社最新情報」(仮題)(通訳あり)	アラン・ホームズSBIG社長
16:10～16:40	フィルターに関連する情報と議論	
16:40～17:40	アストロアーツ講演とデモ	
	・ステラギアによる撮像の実際	
	・ステラハンターによる移動天体検出	
17:40～18:00	懇親会場設置	
18:00～19:40	懇親会(各自一言)	
19:40～20:20	マイナスからのスタート	岩片かおり
20:20～21:00	私の撮像スタイル-問題点と工夫-	元木基嗣
5月30日		
10:00～11:00	デジカメ・プリンタ等の最新情報、デジカメと冷却CCDの使い分け(仮題)	蒔田剛・中西昭雄
11:00～11:30	CCD放浪記～超高密度荷物圧縮法についての一考察	宮崎淳一
11:30～12:00	展示作品に関連した情報交換会	
12:00～12:30	恒例! みんなの失敗談～これからのハード・ソフト～	川崎誠志
12:30～13:00	来年に向けて	

【レポート】第8回 CCDカンファレンス CANP'04 (5月29, 30日、日本科学未来館)

【2004年6月2日 アストロアーツ】

5月29, 30日の両日、国内の冷却 CCD ユーザーのメーリングリスト「CAN (CCD Astronomy Network)」の年次交流会である「CANP'04」が東京の日本科学未来館で開催された。

(「CANP'04」参加者の写真)

「CANP'04」参加者の皆さん。クリックで拡大

総勢57名の参加者が全国から集まり、自らの撮像スタイルの紹介から最新ハードウェアのインプレッション、遠征機材の運搬法に至るまで、幅広い話題で活発な発表・議論が行われた。

(講演するみなみさんの写真)

「星ナビ」連載でおなじみの「CCDママ」みなみさんによる講演も。クリックで拡大

今年のCANPでは、デジタル一眼レフカメラと冷却CCDとの使い分けに関する議論や、市販のデジタルカメラの内蔵フィルタを取り外してH α 領域の写りを改善する改造テクニックの紹介など、昨今のデジタル一眼レフカメラの普及ぶりを反映したトピックが目立った。

また、冷却CCDを用いた測光観測やトランジット法による系外惑星探索など、鑑賞用画像の撮像だけでなくCCDの楽しみ方についても、様々な話題が盛り上がりを見せていた。

SBIG社・国際光器から注目の新CCDカメラ「STL シリーズ」が展示。

メーカー・販売店からはSBIG社のアラン・ホームズ社長と国際光器のベリー・グーリー社長が参加、コダック社の35mm判・1100万画素CCDチップを用いた新ラインナップ「STL シリーズ」の紹介などが行なわれて注目を集めていた。アストローツからも、4月16日に発売された統合型天体撮像ソフト「ステラギア」、および6月1日発売の移動天体検出ソフト「ステラハンター・プロフェッショナル」の紹介・実演を行った。

会場内にはCANメンバーによる天体画像が多数展示され、撮像や画像処理テクニックについて活発に意見が交換されていた。

会場にはCANメンバーによる天体画像の作例が展示され、メンバー同士での意見交換なども活発に行われていた。

昨年から今年にかけて普及価格帯のデジタル一眼レフカメラが各社から発売され、天体撮像用デバイスとしてのデジタルカメラが天体写真界にも完全に定着した感があるが、既存の冷却CCDとデジタルカメラの特徴や違いを踏まえつつ、これらをどう使い分けながら撮像ライフを楽しむかに大きな関心が寄せられていることを実感させるミーティングであった。